

二〇二五年度 入学試験問題

国語（六十分）

- ・問題は「一から三」まであります。
- ・解答用紙は一枚です。
- ・解答は全て解答用紙に記入して下さい。
- ・句読点、記号なども字数に含みます。

一 次の文章を読み、あとの問に答えなさい。

A ヨーロッパは自然の少ないところで、自然を克服し、人間の技で豊かさを作る<sup>1</sup>。

そのため、自然にない人工的なものに価値がある。「直線」もその一つである。

ヨーロッパの庭園は直線的である<sup>2</sup>。幾何学的な秩序がある模様に、シンメトリー（左右対称）なデザインを組み込んでいく。そして、色とりどりの豪華な大輪のバラが、所せましと咲き乱れるバラ園に代表されるように、いかに<sup>a</sup>にも不自然な形で植え込んでいくのである。それが西洋の庭園の美しさである。

西洋文化では、人工的な直線が美しいとされている。これは西洋の思考法にも大きく影響していると言われることもある。確かに、<sup>3</sup>欧米の人々の思考は、直線的である。

AであればB、BであればC、とまるで数学の証明問題を解くように、論理的に思考を展開していく。自然の少ないところでは選択肢は多くない。

こちらには水がある、あちらには水がない。一方には食べ物がある。他方にはない。道が正しければ楽園にたどりつけるし、道を誤れば死が待っている。こうして直線的に道を進んでいくのである。

これは、まさにAであればB、BであればCという論理的な思考である。このときに重要なのは、道を選ぶことよりも、前へ進む「行動」である。そのため、「行動」が、大切になるのである。

一方、自然が多いところでは選択肢が多い。食べ物も豊富にある。こちらを食べるべきか、あちらを食べるべきか。こんな選択の連続である。<sup>b</sup>とても一直線に決めていくことはできない。そこで、「深く考える」ことや「悩む」ことが重視されるのである。

この西洋の直線的な思考法は、キリスト教によるものとされているが、キリスト教は、もともと自然の少ない場所で生まれた宗教でもある。自然が少ない砂漠で生まれたキリスト教は、確かに直線的である。

キリスト教では天地創造から始まり、最後の審判で世の中が終わる。つまりは一方向である。しかし、東洋で生まれた仏教では、世界は循環する。人々は輪廻<sup>りんね</sup>転生で生まれ変わる。年齢も六〇歳になると干支が生まれた年に戻り「W」を迎える。つまりは生まれたての赤ん坊に戻り、赤ん坊と同じ赤いチャンチャンコを着るのである。

また、日本では修行を積んで力をつけていくと、極めた先は、力が抜けて自然体となるということが多い。そして、見るからに偉そうに見えたり、すごそうに見えるのはダメで、極めると凡人や子どもの感覚に近くなるというのだ。つまりは、一周回って、戻ってくるのである。

B 西洋の自然庭園は、直線や幾何学模様で造られ、自然にないような花壇やバラ園を造る。

これに対して日本はどうだろう。

伝統的な日本庭園は、あたかも自然の山野のように木を植え、池を作り、石を置き、コケを生やす。このように自然の姿のままの風景に近いとい  
うことが、日本の庭園の美しさなのである。

<sup>4</sup> 盆栽も日本の文化を象徴するものだろう。

盆栽は恐ろしいほどの手間ひまを掛けて、枝を曲げたり、剪定<sup>せんてい</sup>したりして植物を育てる。それなのに、それがあたかも自然の風景であるかのように  
作り上げるのである。

西洋の美は自然とかけ離れたものが美しく、日本の美は自然に近いものが美しい。  
しかし、不思議である。

日本は自然が豊かな国である。家の周りにも木々は茂り、草花が咲き、コケが生えている。こんなに自然があふれているのに、どうしてわざわざ屋  
敷の敷地の中に、同じような自然の風景を作るのだろうか。人手を掛けて作る庭園なのに、どうして周りの自然と同じような風景を造ってしまうのだ  
ろうか。

山の緑や紅葉は美しいが、庭園の緑や紅葉はそれにも増して美しい。

日本の庭園は、自然の風景のように見えるが、決して自然の風景と同じではない。自然の美しさを引き出し、自然の豊かさをより際立たせるように  
造られているのである。

日本の自然は豊かである。自然の強大な力は、豊かな恵みであり、大きな脅威である。そのような中で、人々は自然に逆らうことなく、自然の力を  
利用する知恵を発達させてきた。

それは、庭造りについても同じである。

豊かな自然を切り出して、屋敷の中に庭園を造る。

そして、建物の窓から、まるで床の間の絵のように庭園の自然を切り取る。

さらには、部屋の床の間には、季節の花を活ける。こうして、自然を切り取っていくのである。

日本の自然は豊かで美しい。だから、庭園も自然そのままに見せる。そして、茶室に飾る花は、野に咲いているように活ける。こうして、まるで人  
の手が入っていないかのように造ることが、最上の美とされているのである。

**C** 西洋文化は、砂漠で育まれた文化である。何もないところに水を引き、種<sup>タネ</sup>を播き、植物を育てていく。そして、何もないところから人の力で食べ物  
を作り上げていくのである。つまりゼロから積み上げていく **X** の文化である。

しかし、日本は自然が豊かである。あらゆるものがそこにある。その中から余計なものを取り除き、必要なものを切り取っていく。そのため、日本  
文化は「引き算の文化」であると言われている。

日本で作られた俳句は、世界で一番短い詩であると言われている。たった **Y** 文字の詩である。俳句を作るということは、言葉を省略し、余計

なものを取り除いていく作業である。しかも、この短い詩の中に **Z** を入れなければならない。つまりは、自然を切り取らなければならないのである。

日本料理も、引き算の料理である。余計な味を加えずに、食材の味を引き出すことが最上とされる。これも、自然が豊かであり、自然の恵みである食材が良いからこそ、できることである。寒冷で乾燥するヨーロッパの気候では、収穫できる野菜の種類も少ないし、質の良い野菜を作ることも難しい。このように食材が良くない場合には、西洋料理のようにソースで味を足していく調理が、美味しい料理を作るために必要なのである。

そして、日本の料理もまた、季節の葉を添えたりして、引き算をした中に、季節感や自然の美しさを演出する。

茶道も余計な装飾は省いていく。そして、わびさびの世界を作っていくのである。陶芸の世界でも余計なものを加えない。土本来の色合い、自然のままの不完全な形が美しいとされる。

こうして、日本人は引き算の文化を作り上げた。それは、持て余すほど豊かすぎる自然があつたからなのである。そして、日本人は、引き算の文化の中で、自然の豊かさや美しさを表現してきたのである。

(稲垣栄洋『雑草が教えてくれた日本文化史』より)

**問一** 波線部 a、c の意味として最も適当なものをそれぞれあとの選択肢から選び、記号で答えなさい。

a 「いかにも」

イ 苦心して

ロ どうとでも

ハ ともかくも

ニ 見事なほど

ホ 見るからに

b 「とても」

イ このうえ

ロ すぐには

ハ たいへん

ニ とうてい

ホ もともと

c 「あたかも」

イ 今にも

ロ 確かに

ハ 非常に

ニ まるで

ホ わざと

**問二** 傍線部 1「ヨーロッパは自然の少ないところで、自然を克服し、人間の技で豊かさを作る」とあるが、

I このようにして作られた文化のことを筆者はどのように表現しているか。C 文中から八字以上十字以内で探し、抜き出して記しなさい。

II 「ヨーロッパ」の人たちはどのようなものに美を感じるようになっていったか。B 文中から十字で探し、抜き出して記しなさい。

III これは対照的に自然の豊かな場所に住む日本人は、どのようなものを発達させてきたか。B 文中から二十二字で探し、その始めと終わりの

四字を抜き出して記しなさい。

**問三** 傍線部2「幾何学的な秩序がある模様に、シンメトリー（左右対称）なデザインを組み込んでいく」とあるが、「幾何学的な秩序がある模様」や「シンメトリー（左右対称）なデザイン」を筆者はどのように表現しているか。A文中から五字で探し、抜き出して記しなさい。

**問四** 傍線部3「欧米の人々の思考は、直線的である」とあるが、

I 「欧米の人々」の思考の特徴を本文ではどのような行為に例えて表現しているか。A文中から八字以上十字以内で探し、抜き出して記しなさい。

II このような「欧米の人々」の思考は、どのような宗教上の教えとなつて表れているか。次の説明文の空欄に入る二十三字の言葉をA文中から探し、その始めと終わりの四字を抜き出して記しなさい。

▼世界は【 】という教え。

III IIとは対照的に日本で定着している仏教は、どのような思考に基づいているか。次の説明文の空欄に入る言葉をA文中から十一字で探し、抜き出して記しなさい。

▼【 】という思考。

**問五** W ) Z に入る言葉をそれぞれ三字以内で記しなさい。

**問六** 次の一文をA文中に入れるとしたらどこが適当か。この一文が入る直前の五字を抜き出して記しなさい。

▼こちらにも水がある、あちらにも水がある。どちらに進むべきか、どちらに暮らすべきか。もちろん、動かないという選択肢もある。

**問七** 傍線部4「盆栽も日本の文化を象徴するものだろう」とあるが、「日本の文化」の具体例として挙げられているものをC文中から全て探し、抜き出して記しなさい。

問八

本文の構成の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- イ A文では西洋と日本の思考法の違い、B文では西洋と日本の文化の違い、C文では西洋と日本の美意識の違いを説明している。
- ロ A文では西洋と日本の宗教の違い、B文では西洋と日本の美意識の違い、C文では西洋と日本の風景の違いを説明している。
- ハ A文では西洋と日本の思考法の違い、B文では西洋と日本の美意識の違い、C文では西洋と日本の文化の違いを説明している。
- ニ A文では西洋と日本の庭園の違い、B文では西洋と日本の風景の違い、C文では西洋と日本の美意識の違いを説明している。
- ホ A文では西洋と日本の思考法の違い、B文では西洋と日本の風景の違い、C文では西洋と日本の美意識の違いを説明している。

問九

本文の内容と合致しているものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- イ 日本の仏教思想に自然環境の豊かさは影響を及ぼしている。
- ロ 日本庭園の美しさは職人達の優れた技術に支えられている。
- ハ 日本は環境保護の観点から自然の改変に反対する声が強い。
- ニ 日本の文化では自然に手を加えないことを理想としている。
- ホ 日本の人々は豊かすぎる自然を持て余し気味になっている。



二 次の詩を読み、あとの問に答えなさい。

一本一本

北川 冬彦

繁茂した森林も好きだが

それにも増して好ましいのは

凍<sup>い</sup>てついた<sup>1</sup>曠野<sup>の</sup> X 林だ

そこでは樹々は

<sup>2</sup>裸で 何の虚飾もない

互いに寄りか<sup>か</sup>ろうとしていない

一本一本

めいめい独立して

厳冬に耐えている

その姿の

<sup>3</sup>いじらしく

<sup>4</sup>雄々しいことよ

『花電車』より)

問一 傍線部1「曠野」は「こうや」と読むが、「曠」の意味を変えずに別の漢字に置き換えるとしたら何がふさわしいか。適当な漢字を答えなさい。

問二 X に当てはまる漢字として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

イ 曾    ロ 素    ハ 礎    ニ 措    ホ 疎

問三 傍線部2「裸で 何の虚飾もない」とあるが、

I この比喩は樹々のどのような様子を表現しているか。「<sup>う</sup>という様子」に続くよう十字以内で答えなさい。



Ⅱ この表現に込められた意味として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

イ 寒さに凍えながら耐え忍ぶ人間の姿

ロ 人に裏切られ人間不信に陥っている姿

ハ 一人の人間としてありのままに生きる姿

ニ 自然に生活のすべてを奪われた人間の姿

ホ 人との関係を拒絶して生きようとする姿

#### 問四

傍線部3「いじらしく」とあるが、「いじらしい」の類義語として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

イ けなげだ

ロ すこやかだ

ハ おうへいだ

ニ かたくなだ

ホ しなやかだ

#### 問五

傍線部4「雄々しいことよ」という表現に込められた意味として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

イ 他者と競争し、最後まで勝ち残ろうとする粘り強さ

ロ 他者に頼らず、自分らしく生きていこうとする力強さ

ハ 他者からの圧力にも負けずに頑張ろうとする我慢強さ

ニ 他者と高め合い、互いに成長しようと努力する根気強さ

ホ 他者にどう思われても自分だけの考えを貫く意志の強さ

#### 問六

この詩を解釈した次の文の空欄に入る最も適当な言葉を詩の中から探し、抜き出して記しなさい。ただし、1には六字の言葉、2・3にはそれぞれ二字の言葉を入れることとする。

▼この詩では人々が寄り添って生きる様子を【 1 】と表現しているが、筆者は【 2 】した生き方に共感を覚えている。また、日々の暮らしを【 3 】と例えながら、それでも一日一日を大切に生きていきたいと願う作者の姿がうかがえる。

#### 問七

この詩の表現上の特徴を述べたものとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

イ 沈んだ気持ちを七五調の流麗なリズムで表現している。

ロ 悲しみに暮れる心情を文語を用いて淡々と表現している。

ハ 心の底の強い感情を五七調の力強いリズムで表現している。

ニ あこがれにも近い思いを平易な口語で素直に表現している。

ホ 不快な気分を漢語を多く用いることで強調して表現している。

### 三 次の文章を読み、あとの問に答えなさい。

高校二年生の大塚春<sup>はるの</sup>乃<sup>の</sup>は花屋を営んでいた祖母のすすめで「全国高校生花<sup>はな</sup>生<sup>せい</sup>けバト<sup>トル</sup>ル」に出場することを決意する。しかし春乃の高校には華道部がなく、一緒に出場してくれる生徒が見つからず困っていた。一方、春乃の高校に転校してきた山城貴音<sup>たかね</sup>は、遅れた勉強を教えてもらう代わりに春乃と大会に出場することを約束する。花を購入する予算もほとんどない中、二人で工夫して準備を積み重ね、地区大会の日を迎えた。

A ステージ脇に人が集まり始めた。同じ参加者の生徒たちだろう。制服姿がちらほらいる。大半が女子だが、少ないけれど男子の姿もあった。今回の関東予選は、① チームがエントリーしている。予選は本戦とは趣<sup>a</sup>が少し異なる。まず一対一ではなく、三組同時に花をいける。客、審査員はそれに点を付ける。これを八度繰り返し、全チームの点数を弾<sup>はじ</sup>き出し、上位四チームがトーナメントに進出することになるのだ。

「話していた通り、一回戦こそ一番気合い入れていくぞ」

貴音は他校の生徒たちを眺めながら、顎<sup>b</sup>に手を添えて言った。

一対一の決闘方式ならば、一点でも相手を上回ればよい。しかし一回戦はその組で最高得点を取ったとしても、全てのチームの上位四チームに入らなければそこで敗退が決まってしまう。

「強いチームが組にいれば、勝てたとしても、票を取られちゃうからね」

春乃はそのことに気付いており、最終練習の時に貴音と相談していたのだ。お客さんの数は変わらない。それを三チームで分け合う形になる。仮に票の総数を100とする。三チームの中で、一チームだけが突出していれば、

—— Aチーム70、Bチーム20、Cチーム10

といった得票数になるだろう。では二チームが強豪であつたらどうか。

—— Eチーム50、Fチーム45、Gチーム5

このような結果が予想される。これで②より、③、④が作品の魅力で勝っていたとしても敗退がほぼ決まる。三チームの実力がハクチュウ<sup>み</sup>しており、三つ巴<sup>さんぽう</sup>の展開にでもなれば得票数はさらに下がってしまうだろう。つまりいかに大差をつけるかが突破の鍵となり、初戦こそ全力でぶつからねばならない。

参加者の集合時間となった。ここでくじを引き、対戦相手が決まる。

「貴音、引いてよ。くじ運いいでしょ?」

町内会のガラガラ抽選会などでも、一番下の六等以外引いたことがなく、自分にはくじ運はないと思っている。出来れば引きたくなかった。

「晴馬よりましっただけ。どうなっても文句は言わねえからさ」

貴音はやはり緊張していないのか、いつもと変わらぬ笑みを零した。そこでふと気付いたが、周りの参加者たちが、ちらちらとこちらを盗み見している。なるほど男女のペアは自分たちだけである。二組の男子同士のチームを除けば、他は全部女子のチームということで、かなり珍しいだろう。順々にくじ引きが行われ、参加者はそのたびに「W」する。春乃らの順番は後半であった。

申し込み時にチーム名をつけなくてはならない。別に「〇〇高校華道同好会」でもいいのだが、大半のチームがチーム名に趣向を凝らしているし、春乃としてもどうせならばこの二人ならではの名を付けたかった。

「次は……チーム『ハルノオト』の方」

「はい」

春乃は進み出ると、心の中でお願いと念じてくじを引いた。

「七組です」

周りで小さく喜びの声が上がる。春乃にはその意味がわかった。七組には昨年の関東大会ハシヤにして、全国大会ベスト4の強豪、富咲学園がすでに入っているのだ。いわゆるお嬢様学校の富咲学園は、伝統のある華道部を有している。先ほど七組を引いたチームの生徒たちは「X」を落としており、残り一枠に入らないように皆が祈っていた。

「なに？」

貴音は首を捻って訊いてきた。

「富咲学園は凄く強い……ごめん」

自分のくじ運のなさがつくづく嫌になる。

「そういうことね」

貴音は顔色を変えるところか、早起きが応えたか、欠伸を堪える有様である。

B くじ引きが終わった後、富咲学園の生徒たちが近づいて来た。

「七組で一緒になりました富咲学園『銀鈴花』の蓮川京子です。こちらは梅田萌、どうぞよろしくね」

そう挨拶をしたのは、長い黒髪をなびかせた女子生徒。ウルんだ瞳と、締まった口元が清楚な美人である。もう一人のほうはショートカットで大人しそうに会釈をする。二人とも高校三年生らしく、春乃らより学年は一つ上ということになる。

「よろしく願います。私は大塚春乃で、こっちは山城貴音です」

<sup>3</sup>「男女のペアって珍しいわね」

「はい……そうですね」

「華道部なの？」

「華道同好会なんです、会員は私一人で。こっちは助っ人というか……」

蓮川の口元に⑤の色が浮かび、小さく鼻を鳴らした。

「ああ、そういうことね。記念参加って訳だ」

「え？」

「だってそうでしょ。数合わせに彼氏を連れて来るなんて、勝つ気が無いじゃない」

「違います！」

蓮川が言い終わるや否や、春乃は噛みついた。今まで声を荒らげるようなところは一度も見せたことがないからだろう。それに貴音は少し驚いたように眉を開いた。

「彼氏じゃないんだ」

蓮川はもう一度、ふふんと鼻を鳴らした。

「そっちも違うけど……もう一つのほう」

「もう一つ？」

「記念参加なんかじゃありません」

「へえ……一回戦突破くらいは目標にしてるって訳ね。でも私たちが相手とは運が悪かったわね。大丈夫、あなたたち二年生でしょ。私たちと違って次がある。また来年頑張ってね」

蓮川は【Y】が立つらしく、流れるように一気に捲<sup>まく</sup>し立てる。話している途中、何度も割って入ろうとしたが、その隙は全く無い。

<sup>4</sup>「私たちも来年なんてない……」

そう震える声で返すのがやつとであった。それも蓮川には聞こえなかったか、やり込めてやったといった顔で、チームメイトの梅田と笑い合っている。

C「えーっと……」

貴音が一歩進み出て【Z】を擲<sup>しか</sup>める。

「何かしら？」

蓮川は冷たく笑って応じる。

「バス川さん」

「誰がバス川よ！」

蓮川はケッソウを変えてすぐに反論する。

「バス川さん？」

「は、す、か、わ、蓮川！」

「そうか。蓮川さんね。富咲学園って凄く賢いんですよ？」

「ま、まあね」

富咲学園は都内の私立の中でも、三本の指に入るほど偏差値の高い高校である。

「その割に間違いが多いね。三つもある」

貴音は片笑みながら頬を指で掻<sup>か</sup>いた。

「三つ？ 言ってみなさいよ」

「一つ、春乃も今言ったけど、俺たちも来年は無い。俺、転校しちゃうからさ」

「ふうん。じゃあ、あなたたちもラストチャンスって訳ね。それで？」

蓮川は顎を突き出して見下ろすように春乃を見た。

「二つ目は、一回戦突破なんて目指してない」

「まさか全国大会に出るなんて言わないでしょうね」

蓮川が笑いながら嫌味たらしく言うと、梅田も嘖き出す。

「言わないよ。全国大会優勝ね」

貴音が真顔で言うのと、二人の笑みがぴたりと止んだ。

「一応、最後まで聞いておくわ」

「三つ目、運が悪いつて言っていたけど、俺は運がいいと思っている。お二人って、去年全国ベスト4なんですよ？」

「ええ。それで何で運がいいって言えるの？」

蓮川は幼児に尋ねるように猫なで声で言った。

「うちの相方、凄いんだけど、気が弱いのが玉に瑕きずなんだ。蓮川さんたちを倒せば、自信を持って全国まで駆け上がれる」

貴音はにこりと笑うが、蓮川は何も言葉が出ないよう5で歯噛みしている。

「春乃、行くぞ。じゃ、また後で、蓮川さん」

貴音は春乃の腕を掴つかむと、残る一方の手を蓮川らに向けて軽く振って、その場を後にした。

「呑まれすぎな」

少し離れると、貴音はそう言って笑った。

「ありがと。でも、大口叩たたきすぎ」

春乃もいつももの調子で返した。6

「自分を奮い立たせるためだつて。あそこまで言ったら、負けられねえだろ？」

「うん。負けないから大丈夫」

貴音が腕を離すと、春乃は微かすかに息を漏らした。会場に着く前から緊張を感じ、くじ引きの時にはさらに体が強張こわっていた。しかし今は肩の力も抜けて、すっかり元通りになっている。

貴音は不思議な男である。どんな時も、きつとどうにかなると思わせてくれる。春乃は頬を紅潮させる貴音の横顔を見て改めてそう感じた。

(今村翔吾『ひやつか!』より)

問一 二重傍線部 a f について、カタカナのものは漢字に直し、漢字のものはその読みをひらがなで記しなさい。

問二 ① に入る数字を、漢数字で記しなさい。

問三 傍線部 1 「一回戦こそ一番気合い入れていくぞ」とあるが、なぜこのように言ったのか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

イ 一回戦の作品で好印象だと、二回戦以降の審査にも良い影響を与えることができるから。

ロ 一回戦に高得点で勝つことは、二回戦のトーナメント戦での組み合わせに有利だから。

ハ 一回戦で高得点を取って全チームの中で上位に入らなければ、二回戦に進めないから。

ニ 一回戦で勝利すれば自信が生まれ、二回戦以降の戦いでも大差を付けて勝てるから。

ホ 一回戦で戦う相手は強豪校なので、そこに勝てば優勝することがほぼ確定するから。

問四 ② ④ に入るものの組み合わせとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

イ ② Fチーム ③ Eチーム ④ Aチーム

ロ ② Eチーム ③ Aチーム ④ Fチーム

ハ ② Aチーム ③ Eチーム ④ Fチーム

ニ ② Cチーム ③ Eチーム ④ Fチーム

ホ ② Bチーム ③ Gチーム ④ Fチーム

問五 「W」に入れるのに最も適当な四字熟語を、解答欄に合うように漢字で記しなさい。

問六 傍線部 2 「春乃にはその意味がわかった」とはどういうことか。答えとなる次の文の空欄に入る最も適当な言葉をそれぞれ A 文中から四字で探し、

抜き出して記しなさい。

▼春乃が七組を引いたことは強豪校と対戦する最後のチームとして自分たちは【 i 】ことを意味し、そのため【 ii 】が生じたということ。

問七 「X」～「Z」に入る漢字として最も適当なものをそれぞれ次の中から選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号を重ねて用いないこと。  
イ 頭    ロ 顔    ハ 目    ニ 鼻    ホ 口    ヘ 唇    ト 歯    チ 舌    リ 肩    又 腕

問八 傍線部3「男女のペアって珍しいわね」とあるが、「春乃」と「貴音」が周囲から注目を集めていることが端的に読み取れる表現をA文中から二十六字で探し、その始めと終わりの四字を抜き出して記しなさい。

問九 ⑤に入る最も適当な言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。  
イ 嘲り    ロ 怒り    ハ 疑い    ニ 疲れ    ホ 妬み

問十 傍線部4「私たちも来年なんてない……」とはどういうことか。答えとなる次の文の空欄に入る表現を、五字以上十字以内で答えなさい。  
▼「」ため、来年は二人では出場できないということ。

問十一 傍線部5「蓮川は何も言葉が出ないようで歯噛みしている」とあるが、「蓮川」のどのような心情を表しているか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- イ 貴音だけでなく春乃も実力派だということを知らされて不安が生じ、返す言葉が見つからず動揺している。
- ロ 自分たちの実績をたたえつつもそれを超える目標を掲げてきたことに感服し、返す言葉を探している。
- ハ 去年全国大会ベスト4の自分たちを実は持ち上げているので、嬉しい気持ちを努めて隠そうとしている。
- ニ 春乃に対して二人がかりで意地の悪い言い方をして責めたことを暗に指摘され、気まづくなっている。
- ホ 自分たちの誇るべき実績を踏まえた貴音の言い分が理にかなっていて悔しいが、言い返せないでいる。

問十二 傍線部6「いつもの調子で返した」とあるが、「春乃」と「貴音」の「いつもの」関係を説明したものととして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- イ 相手の気持ちを尊重しつつも、遠慮せずに声を掛け合える関係
- ロ 春乃が貴音の言動の行き過ぎを注意して、常に上位にいる関係
- ハ 親しく話をするが、礼儀を重んじて互いに相手に気を遣う関係
- ニ 春乃が貴音の弱点を補い、自分のペースに持ち込んでいく関係
- ホ 互いに相手の欠点が気になり、ことあるごとに指摘し合う関係



問十三 「貴音」の人物像の説明として適当なものを次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

- イ 常に周囲のことを気にしていて、相手によって態度を変える人物
- ロ 何事にも興味を示すことなく、自分の思うままに振る舞う人物
- ハ 相手に敬意を払うことをせず、常に高圧的で嫌味つたらしい人物
- ニ ふざけているように見えるが、しっかり考えた上で行動する人物
- ホ その場の雰囲気にもまれがちだが、大切なことを見失わない人物
- ヘ いかなる窮地に陥ったとしても、活路を見出すことができる人物

以下余白

